

めぐみイエス・キリスト教会

2023年3月19日(日)第三主日礼拝

午前10時より

週報「通算第649号」



2023年標題聖句

第Iヨハネの手紙第5章4節～5節

《神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌108「丘に立てる荒削りの」 p. 150

【交読文】 No.28 詩篇第91篇 p. 902

【賛美Ⅱ】 新聖歌448「神より生まれし者よ」 p. 722

【使徒信条・主の祈り・先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.1「聖霊の風」

【聖書朗読】 使徒の働き24章1節～9節(新約p. 285下段)

【礼拝説教】 《大祭司アナニアの告訴》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※聖書箇所(使徒の働き24章1節～9節)

24:1 五日後、大祭司アナニアは、数人の長老たち、およびテルティロという弁護士と一緒に下って来て、パウロを総督に告訴した。

24:2 パウロが呼び出され、テルティロが訴えを述べ始めた。「フェリクス閣下。閣下のおかげで、私たちはすばらしい平和を享受しております。また、閣下のご配慮により、この国に改革が進行しております。

24:3 私たちは、あらゆる面で、また、いたるところでこのことを認め、心から感謝しております。

24:4 さて、これ以上ご迷惑をおかけしないために、私たちが手短に申し上げることを、ご寛容をもってお聞きくださるようお願いいたします。

24:5 実は、この男はまるで疫病のような人間で、世界中のユダヤ人の間に騒ぎを起こしている者であり、ナザレ人の一派の首謀者であります。

24:6 この男は宮さえも汚そうとしましたので私たちは彼を捕らえました。

24:7 【本節欠如】

24:8 閣下ご自身で彼をお調べくだされば、私たちが彼を訴えております

事柄のすべてについて、よくお分かりいただけます。」

24:9 ユダヤ人たちもこの訴えに同調し、そのとおりだと主張した。

●ポイント1「アナニア」と「テルティロ」とは？

■**アナニヤ** 主は恵み深いを意味する名前ハナヌヤのギリシヤ語形。紀元47年～58年大祭司職にあった。最高法院でパウロから白く塗った壁と呼ばれた。また長老たちを率いてカイサリアに下り、総督フェリクスにパウロを訴えた。その親ローマ的立場の為、紀元66年熱心党に暗殺された。

■**テルティロ** 比較的一般的なローマ人の名前で、大祭司アナニヤと長老たちに雇われた弁護士。その演説の中で、「私たち」という言葉で語っていることと「この国」と言っていることから、彼はユダヤ人であったと思われる。当時ユダヤ人がローマ市民権を持ち、ローマ人の名を持っていたことは、よくあることであった。「弁護士」とは演説家という意味でもある。

●ポイント2「フェリクス」とは？

■**アントニウス・フェリクス** 紀元52年から59年までの、ユダヤの地方総督。彼はもともと奴隷の身分であったが、ローマ帝国の皇帝クラウディウス帝の母アントニヤに解放された兄パラが、クラウディウス帝の宮廷で権勢をふるっていた為に、彼も自由民とされた。紀元52年には、ヴェンティディウス・クマヌスの後任として、シリヤ州総督の下にあるユダヤ地方総督になる。フェリクスは、3人の婦人を妻としたが、3番目の妻ドルシラは、ヘロデ・アグリッパ1世の3人娘の一人で、16歳でエメサの領主アジザスと結婚したが、策略によって夫と別れさせられ、フェリクスと結婚した。

●ポイント3「本節欠如」とは？

24:6「この男は宮さえも汚そうとしましたので、私たちは彼を捕らえました。そして私たちが彼を自分たちの律法でさばこうとしたところ、

24:7 千人隊長リシアがやって来て、力づくで彼を私たちの手から奪い、

24:8 彼を訴える者たちに、あなたの前に来るようにと命じました。閣下ご自身で彼をお調べくだされば、私たちが彼を訴えております事柄のすべてについて、よくお分かりいただけます。」

※ローマ人への手紙8章28節「使徒パウロの勧めから」(新約p.310下段)

◎先週の礼拝メッセージ【千人隊長の英断】

《本日の聖書箇所には、神様や主イエス様のことは何も書かれてはいません。しかし、ここから、実はすべてが神様の御手の中において起こっていると言うことを、私たちはあえて学ぶ必要があるのです。

パウロが捕縛された時、エルサレム教会は何もしなかったのでしょうか。いいえ。教会は熱心に神様に祈ったのです。パウロは解放されませんでしたでしたが、その祈りの応答として、違う結果が描かれています。『「勇気を出しなさい。あなたは、エルサレムで私のことを証したように、ローマでも証しをしなければならない」と、主は言われました。

神様は、ペテロの時のように、御使いを遣わすことも、あるいはシラスとパウロが牢獄に入れられた時に大地震を起こして、すべての鎖を外し、扉を全開することも、もちろんお出来になりました。しかし、今回は釈放することではなく、パウロをローマに導く為に、パウロの甥と千人隊長クラウディウス・リシアを用いたのです。リシアは、ローマ軍人として、ローマ市民であるパウロを守ることを遂行します。ここに、ローマ軍の千人隊長としての英断があるのです。

彼は歩兵200人、騎兵70人、槍兵200人を用意させ、パウロを馬に乗せてカイサリアに送り届けます。パウロ殺害計画を企てたユダヤ人たちは、手も足も出ませんでした。一行は、まずアンティパトリスまでパウロを護衛します。その後、騎兵だけがパウロをカイサリアに連れて行きます。千人隊長リシアはローマ総督フェリクスに手紙をしたため、フェリクスは手紙を読んでパウロを保護しておくように命じました。

神様は超自然的な御わざによって、助け出す事もありますが、時には、人を用いられる事もあるのです。今回がそうなのです。ただ、私たちには最初から、その全貌が見えないのです。この世界の真の支配者は神様です。歴史を動かしているのは、主イエス様です。》

◎お知らせ

※次回の礼拝は通常通り、3月26日(日)午前10時から行ないます。また、今年のイースター礼拝は、4月9日(日)となります。